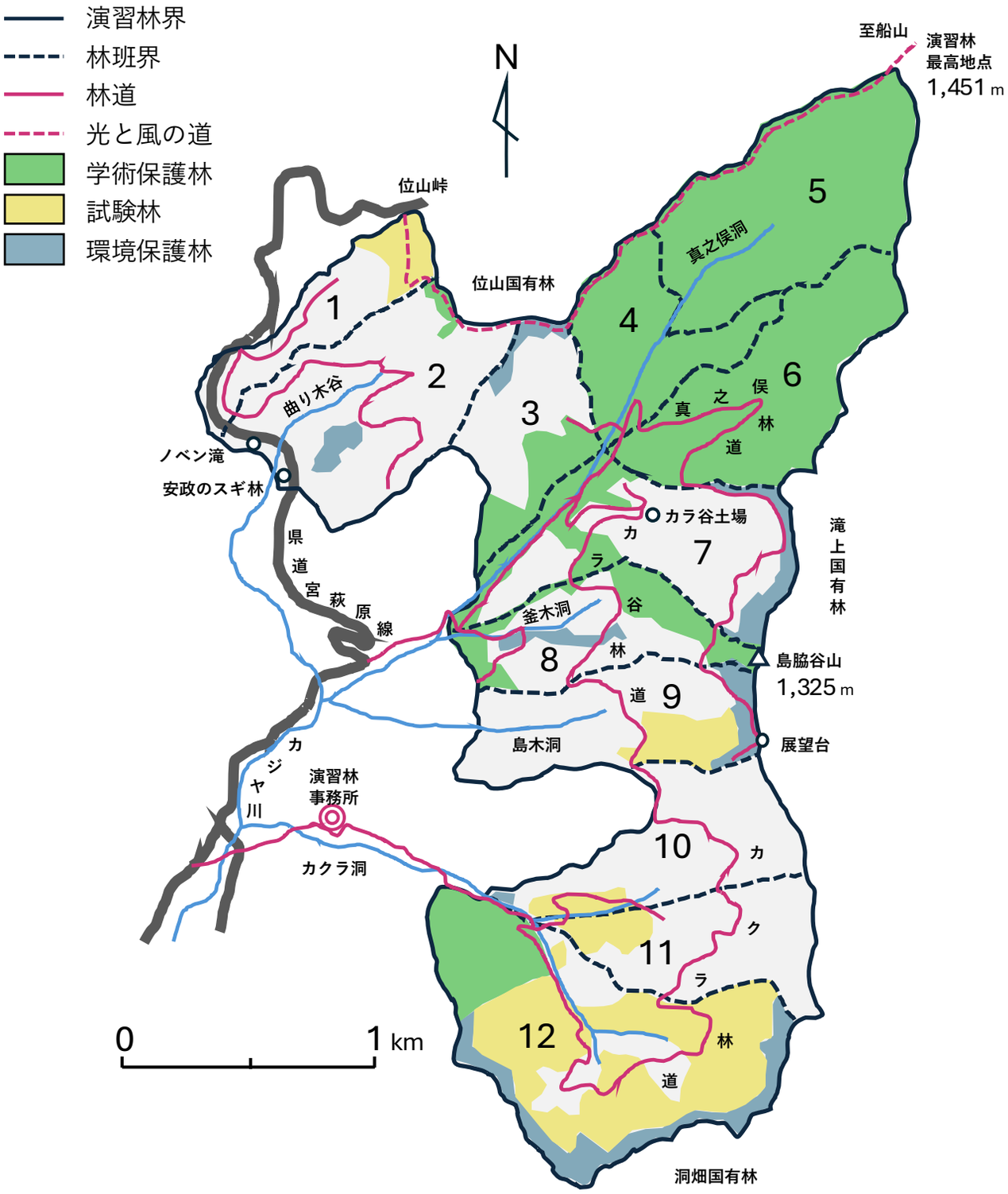
岐阜大学位山演習林

Outline of the Gifu University Forest

Since 1937

岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター

■演習林全図



演習林全域は鳥獣保護区の指定を受けている（2025年11月から2035年10月）

■ 地種区分

地種区分

第 1 種林地｜保護・保全林	第 2 種林地｜施業林
302.33 ha	242. 86 ha

第 1 種林地｜学術参考保護林　一覧

名称	面積｜ha	林班
ブナ天然林	1.35	2
風致保護林	10.51	3
焼畑跡林	20.75	4
ヒノキ・ミズナラ天然林	122.47	4, 5, 6
垂直分布参考林	28.01	7, 8
アスナロ天然林	16.11	12
合計	199.20	

第 1 種林地｜試験・見本林　一覧

名称	面積｜ha	林班
ブナ天然林	6.90	1
スギ高齢級人工林	0.28	2
ヒノキ天然更新林	8.18	9
サワグルミ天然林	0.58	9
見本林	2.72	10
アスナロ天然林	11.71	11, 12
広葉樹天然更新林	38.81	12
ウダイカンバ林	0.50	12
合計	69.68	

第 1 種林地｜環境保全林　一覧

名称	面積｜ha	林班
周辺保全林	30.06	2, 3, 4, 9, 12
林道側保全林	3.39	8, 10
合計	33.45	

■ 概　況

岐阜大学応用生物科学部附属フィールド科学教育研究センター位山演習林* は岐阜県下呂市萩原町山之口に位置する。昭和12年3月（1937年）に当時の山林局大阪大林区署から岐阜高等農林学校に移管管理された森林（551 ha）で，昭和24年（1949年）の学制改革による新制大学の設立にともない，岐阜大学農学部の附属演習林となった。

演習林は，東経137.18～23，北緯35.75～36.08，標高825～1,451 mに位置し，林野面積は553 haである。演習林内を流れる谷は，船山（1,479 m）の山頂近くを源流とする最も深い谷の真之俣洞，舟山から島脇谷山（1,325 m）を結ぶ南北に走る稜線から西に流れ出る釜木洞，島木洞，カクラ洞などが存在し，それらが複雑な地形をつくりだしている。地質は濃飛流紋岩を基岩とし，土壌は主として褐色森林土で覆われているが，地形が急峻のため，土壌は浅い。

気候は冷涼であるが，夏には太平洋側の影響を，冬には日本海側の影響を受ける。演習林事務所（標高750 m）付近での年降水量は，1,800～3,000 mmと幅があり，冬の最低気温が－13˚C前後，夏の最高気温が30˚C前後になる。また，冬の積雪量は事務所付近で0.5～1.0 m，林内で2.0 m以上になる。

* 位山演習林の名の由来について
往時，位山は現在の位山（高山市一之宮町と下呂市萩原町の境）ではなく，もう少し南のピークの呼称だったという。現在の山之口カジヤは位山部落と呼ばれ，ここに立地する演習林は，通称「位山演習林」ないしは「農林の山」と呼ばれてきた。

■ 管理・運営

基本方針：森林の多様性を保全し，教育研究に供することを基本とする

施行方針：

1. 天然林については現状の保全を優先し，原則として施業は行わない
2. 天然生二次林は樹齢構成に配慮しながら教育研究に供する
3. 人工林については育林技術および生物資源利用技術の体験的教育の場と位置づける
4. 木材生産林に区分した森林ついては森林経営計画に則り，整備を進める
5. 森林の管理過程で結果として生み出される林産物を市場に供給する
6. 人工林の一部については針広混交林化を進める

■ 森林の特徴

演習林の森林は，暖温帯から冷温帯に位置し，太平洋型の植生と日本海型の植生が混在しているのが特徴である。また，人の生活との関わりによって形成された森林も見られる。

森林は，ヒノキ・ミズナラ天然林，ブナ天然林，アスナロ天然林，ミズナラ二次林，人工林などに大別できる。

また，演習林内および周辺には，多くの哺乳類や鳥類，両生類などが生息している。

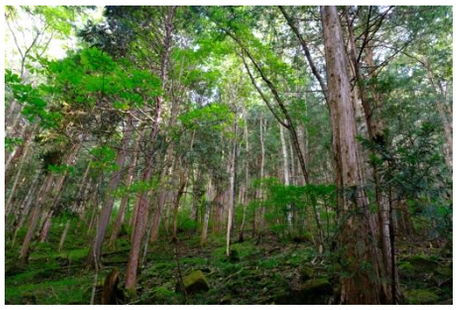
ヒノキ・ミズナラ天然林

演習林で最も広く分布する天然林は，ヒノキ・ミズナラ林で，真之俣洞の4，5，6林班の森林である。この森林は遷移の移り変わりからみて極相に近く，学術参考保護林として伐採等林業的行為を行わない森林に指定している。森林を構成するヒノキの樹齢は約300年，ミズナラの樹齢は約400年に達するとみられる。4林班の毎木調査結果から，確認できた樹木はヒノキ，ミズナラ，ミズメ，サワラ，コハウチワカエデ，ホオノキなど46種，392本/ha，蓄積は約430 m^3/haとなっている。そのうち，ヒノキとミズナラの占める割合は，本数比で29%，蓄積で73%となっており，本演習林の代表的な天然林となっている。

ブナ天然林

ブナ天然林は真之俣洞右岸に分布し，特に1，2林班の尾根筋にまとまって分布する（約9 ha）。尾根筋のブナ天然林には「光と風の道」と名付けられた散策路が通っており，名前のとおり風の通り道になっている。また，気候的に太平洋側の影響を受けているためか，ブナのサイズは最大のものでも胸高直径は1 m前後である。本地区の森林の蓄積の44%をブナで占めているが，蓄積は197 m^3/haと低い。なお，確認できている樹木は，ミズナラ，トチノキなど53種である。

アスナロ天然林



アスナロ天然林は，カクラ洞の11，12林班に，約30 haの森林として分布し，場所によってはほぼ純林に近い森林がある。また凹斜面ではミズナラなどの広葉樹を交えた森林となっている。毎木調査結果から，蓄積は約434 m^3/haで，そのうちアスナロが57%を占め，サワラやヒノキの針葉樹も構成木となっている。アスナロの樹齢は古いもので約300年に達する。

ミズナラ二次林

ミズナラ二次林は江戸時代（天保年間）にナギ（焼畑）が行われた跡に再生した二次林と昭和30年代までに製炭のために伐採された跡に再生した二次林がある。焼畑跡の二次林は，4林班の南側斜面に多く見られ，現在の蓄積は約300 m^3/ha，その50%をミズナラで占める。12林班に存在する製炭材跡の二次林は，ミズナラの他にハリギリやホオノキなどの高木種で構成されている。

スギ・ヒノキ人工林

演習林では飛騨川流域を代表する樹種であるヒノキを主に1950年代から植林している。人工林は地ごしらえ，植栽，下刈り，つる切り，除伐，雪起こし，枝打ち，間伐などの作業を樹木の成長とともに行う。異なる樹齢の人工林を配置している本演習林は，保育・育林などの技術の継承とともに担い手の育成の場となっている。

なお，ヒノキで古いものは，1912年に植栽された2林班の約1 haの人工林が，スギでは安政年間に植栽された人工林（0.6 ha）が2林班にある。

■ 演習林に生息する生き物たち

鳥類

オシドリ，コジュケイ，ヤマドリ，キジ，ヨタカ，アマツバメ，ジュウイチ，ホトトギス，ツツドリ，カッコウ，キジバト，アオバト，ケリ，オオジシギ，ヨシゴイ，ゴイサギ，アオサギ，ダイサギ，カワウ，ミサゴ，ハチクマ，トビ，オオタカ，ハイタカ，サシバ，ノスリ，クマタカ，コノハズク，オオコノハズク，アオバズク，フクロウ，ヤマセミ，カワセミ，アリスイ，コゲラ，オオアカゲラ，アカゲラ，アオゲラ，チョウゲンボウ，サンショウクイ，モズ，カケス，ホシガラス，ハシボソガラス，ハシブトガラス，キキイタダキ，コガラ，ヒガラ，ヤマガラ，シジュウカラ，ヒバリ，ツバメ，コシアカツバメ，イワツバメ，ヒヨドリ，ヤブサメ，ウグイス，エナガ，メボソムシクイ，エゾムシクイ，センダイムシクイ，キレンジャク，ヒレンジャク，ゴジュウカラ，ミソサザイ，カワガラス，ムクドリ，マミジロ，トラツグミ，クロツグミ，シロハラ，アカハラ，ツグミ，コサメビタキ，キビタキ，オオルリ，コマドリ，コルリ，ジョウビタキ，ルリビタキ，ノビタキ，メジロ，カヤクグリ，キセキレイ，ハクセキレイ，セグロセキレイ，ビンズイ，アトリ，カワラヒワ，マヒワ，イスカ，ウソ，シメ，イカル，ホオジロ，ホオアカ，カシラダカ，ミヤマホオジロ，アオジ，クロジ，スズメ

以上，32科102種類が確認されている

哺乳類

ニホンジネズミ，カワネズミ，ヒミズ，コウベモグラ，アブラコウモリ，ニホンウサギコウモリ，コテングコウモリ，ニホンザル，ニホンノウサギ，ニホンリス，ニホンモモンガ，ムササビ，ヤマネ，ヤチネズミ，アカネズミ，ヒメネズミ，ハクビシン，ツキノワグマ，ホンドタヌキ，ホンドギツネ，テン，ニホンイタチ，オコジョ，ニホンアナグマ，イノシシ，ニホンジカ，ニホンカモシカ

以上，16科27種類が確認されている

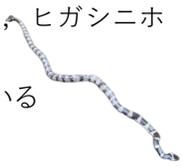
両生類・魚類

ヒダサンショウウオ，ハコネサンショウウオ，アカハライモリ，アズマヒキガエル，ナガレヒキガエル，タゴガエル，ナガレタゴガエル，ヤマアカガエル，ニホンアカガエル，カジカガエル，イワナ，アマゴ

以上，6科12種類が確認されている

爬虫類

ニホンマムシ，シマヘビ，ジムグリ，ヤマカガシ，シロマダラ，ヒガシニホントカゲ，カナヘビ



以上，4科7種類が確認されている

植物については，嶋野・水野（1962）により106科491種（リストに79科199種）が確認されている

嶋野　武・水野瑞夫（1962）岐阜薬科大学腊葉目録（2）位山岐阜大学農学部附属演習林植物目録（1）．岐阜薬科大學紀要 12: 69–76

■ 演習林で行われている教育・研究

教育

主に生物圏環境学科に関連する実習を行っています

森林の調査方法等に関する実習
人工林の手入れに関する実習
水生生物の調査に関する実習
沢や斜面を歩いて水系をたどる実習
研究室セミナー

生物圏環境学科の
HPはこちらから

研究

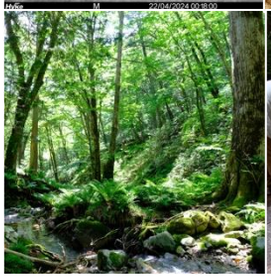
位山演習林では，その豊かな植物・動物相や複雑な地形を活かした調査研究がなされています。中には10年以上の長期モニタリングを行っているものもあります。また，学内外からの研究目的での利用も受付けていますので，演習林事務室や担当教員までご相談下さい。

■ 学内利用

カメラトラップによる哺乳類相の時空間変化
人工林と広葉樹で水文・水質特性は異なるのか？
　～量水堰を用いた長期モニタリング～
針葉樹人工林の間伐後の広葉樹の天然更新
ヒノキ科樹木の生理生態や環境適応
イワナの食性

■ 学外利用

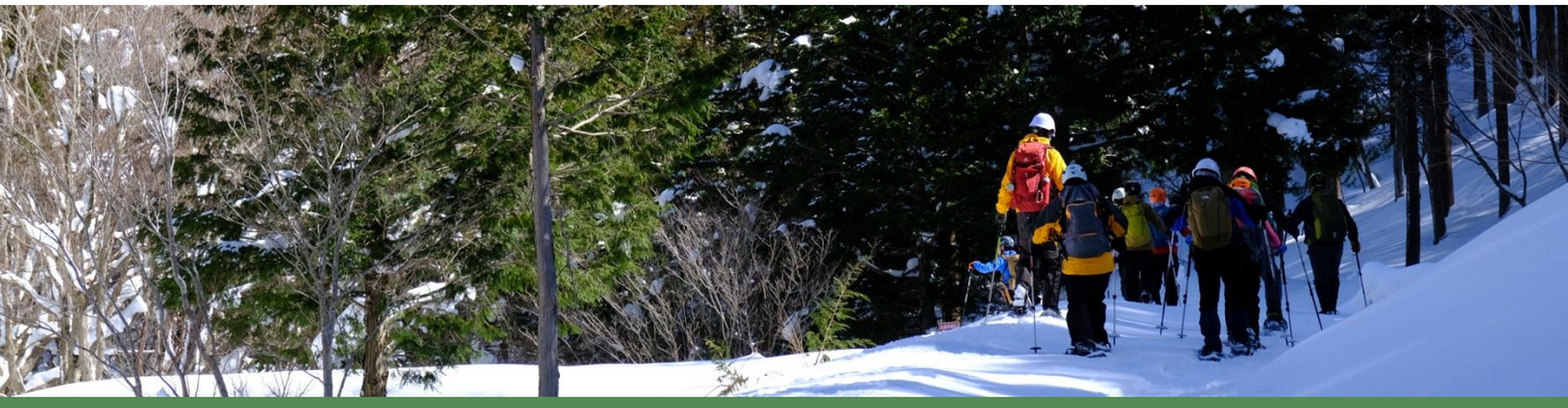
樹木の系統地理学的研究のためのサンプリング調査
奥山（広葉樹天然生林）の土壌調査
ヒノキ人工林の樹病に関する調査
植生の違いが森林の溶存有機物動態に及ぼす影響
森林土壌の炭素賦存量算出における根や石礫の影響



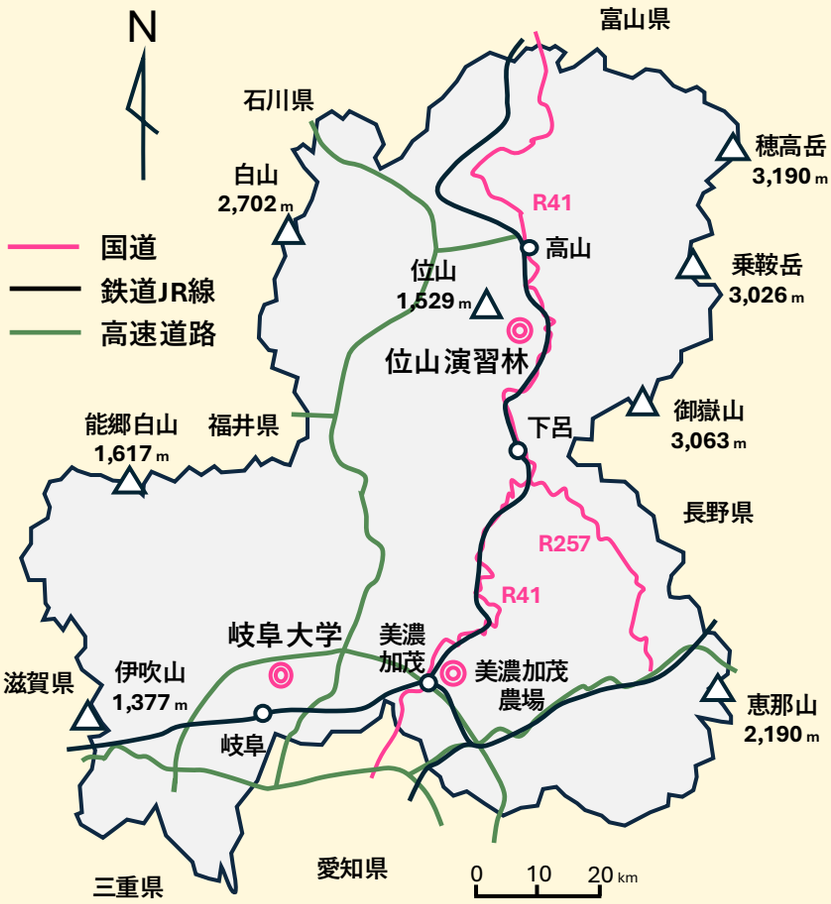
公開講座

毎年，春，秋，冬に，一般向けの森林散策に関する公開講座（新緑の森を歩こう，紅葉の森を歩こう，冬の森を歩こう）を実施しています。県内だけでなく，県外からも多くの参加者が訪れます。普段は公開していない天然林を丸一日かけて歩く人気の講座です。

また，2025年度からは位山演習林の木を使った木のスプーンづくりの講座も始まりました。岐阜大学や応用生物科学部のHPから参加者を募集していますので，随時ご確認下さい。



■ 演習林所在地



アクセス方法

公共交通：

JR高山線｜下呂駅 ＞
げろバス山之口行き｜
　山之口公民館前 ＞
徒歩30分

自家用車：

国道41号｜
　上呂交差点左折 ＞
県道宮萩原線 11 km

■ 利用・宿泊の手続き

宿泊施設の収容人数は最大30名程度。炊事・入浴設備あり。費用は学内者は700円，学外者は基本料金500円（1泊）＋諸経費1,400円（1回）。

入山許可証および宿泊施設仕様申込書を，応用生物科学部附属フィールドセンターHP（https://www1.gifu-u.ac.jp/~gufarm/）からダウンロードして記入し，フィールドセンター事務局（abs-field@t.gifu-u.ac.jp）まで事前に申請して下さい。

2026.6.12 版